部会報告

絵本部会　代表：宮地 敏子

絵本部会会員募集のご案内

日頃から絵本に関心をお持ちの学会員のみなさま、共に絵本文化を豊かに育てていきませんか。毎年学会開催時に、多文化共生に立脚した部会員の多様な企画を協働で運営し発表しています。活動の様子は絵本部会通信でご覧頂けます。参加ご希望やお問い合わせは、玉川大学教育学部 松本由美まで。
ymat@lba.tamagawa.ac.jp

音楽部会　代表：椎山 克己

第 43 回大会ではオンラインによる音楽部会が予定されています。そこで、今年度は大会の前にオンラインによる音楽部会を開催し、大会に向けて準備を行うことを計画しています。初回は 2 ～ 3 月に開催予定です。詳細については後日 Hp 等にてお知らせいたします。

問い合わせ先
音楽部会事務局：上田浩平　ueda@kjc.kindai.ac.jp

支部報告　九州・沖縄・山口支部　支部長：椎山 克己

今年度は下記の日程で九州・沖縄・山口支部の支部総会、並びに支部研究会を開催いたします。
部研究会では会員同士の研究交流ができればと考えています。
発表をご希望の方は下記事務局にメールにてお知らせください。詳細については、後日お知らせいたします。

開催日時：2022 年 3 月 13 日（日）14 時～ 16 時（予定）
会場：久留米信愛短期大学
支部事務局：久世安俊　Mail: kuse@kjc.kindai.ac.jp

国際幼児教育学会 第 43 回大会のお知らせ

期日：2022 年 9 月 24 日（土）～ 10 月 7 日（金）

【基調講演・シンポジウム等】
2022 年 9 月 24 日（土）

【部会・ワークショップ】
2022 年 9 月 25 日（日）

第 43 回大会は第 42 回大会と同様にオンラインで下記の日程で開催いたします。大会テーマは「持続可能な社会実現のための幼児教育」～ SDGｓの視点から考える幼児教育とは～です。詳細については実行委員会で現在検討していますので、決まり次第、HP 等にてお知らせいたします。

第 43 回大会実行委員長　椎山克己

会員の方からの原稿を募集しています

1）海外の幼児教育の現状の紹介
2）日本語で読める海外の幼児教育著書の紹介
※ 字数 300 字程度（Word MS 明朝 10.5）

所属を明記の上、下記アドレスまでご応募ください。
今後の会報に使わせていただきます。

岡本 礼子：okamotoreiko2010@yahoo.co.jp

発　行　人：中坪 史典
企画編集人：岡本 礼子　岡本 千春
岩手 萌子　津島 ひかる
発　行　所：国際幼児教育学会 事務局　福井 逸子
〒651-1111 兵庫県神戸市北区鈴蘭台北町 7-13-1
神戸親和女子大学 発達教育学部 児童教育科
E-mail : iaece.office@gmail.com
www.iaece.org

所属先、住所等が変更された方は、事務局へのご連絡をお願い致します。
所属先の変更届けがないまま、ジャーナル等の送付をした場合、
着払いで戻されるケースも発生しておりますので、ご協力、よろしくお願い申し上げます。

IAECE 2021 News Letter

International Association of Early Childhood Education

国際幼児教育学会
会報 73 号

2021.11
http://www.iaece.org

P.1　巻頭言 中坪 史典
P.2　第 42 回大会のお礼
大会実行委員より／日本語部会より／
英語部会より／中国語部会口頭発表より／
P.4　シンポジウム報告
P.6　ワークショップ報告
P.7　委員会報告
P.8　学会功労賞・研究奨励賞の受賞者報告
世界の幼児教育／海外の書籍紹介
P.9　2020 年度決算報告／
2021 年度予算案委員会報告
P.10　部会報告
支部活動報告
第 43 回大会のお知らせ
事務局より

国際幼児教育学会が 2025 年頃までに育ってほしい 10 の姿

国際幼児教育学会会長　中坪 史典

この度、国際幼児教育学会会長に再任され、二期目を務めることになりました。『会報第 69 号』（2019 年 11 月発行）において私は、会長就任挨拶として、年次大会の充実、機関誌『国際幼児教育研究』の充実、会員への情報発信の充実の 3 点を掲げました。（1）年次大会については、予想しなかったパンデミックの襲来によって Web 開催を余儀なくされました。しかしながら、「日本語部門」「英語部門」「中国語部門」での研究発表、Web の利点を活かした国際シンポやワークショップの開催など、今後の年次大会の新しい可能性を模索する契機となりました。（2）機関誌については、投稿数の激増に伴い、質量ともに豊富な内容で構成され、J-STAGE への登録もなされました。英語版の投稿規定も整いつつあり、今後は「国内会員」のみならず「海外会員」からの論文投稿（英語）も積極的に促します。（3）会員への情報発信については、会報（年 2 回発行）とともに、メールニュースの配信頻度を高めることに務めています。YouTube チャンネルも開設されました。

今期は、以上 3 点の継続・発展とともに、次の 7 点に取り組むことで、「国際幼児教育学会が 2025 年頃までに育ってほしい 10 の姿」を打ち出します。（4）学会 Web サイトを改革します。既存の日本語頁や英語頁の充実はもとより、中国語頁、韓国語頁を新設し、本学会の活動を広く海外に発信します。（5）部会の充実に努めます。既存の音楽、絵本に加え、新たな部会の設置を検討します。（6）支部活動の充実に努めます。Web を介した新たな支部活動の在り方を模索します。（7）研究会の充実に努めます。年 2 回の研究会を Web 開催とし、YouTube チャンネルでの見逃し配信を行うことで、これまで以上に会員の皆様が研究会に参加しやすく（したく）なるようにします。（8）海外交流の充実に努めます。従来の米国、中国、韓国との交流はもちろん、欧州や東南アジア諸国との連携を検討します。また、近年入会が増えている「海外会員」の年次大会参加や、機関誌への論文投稿（英語）を促します。（9）海外研修・セミナーを再検討します。COVID-19 の影響により、海外研修・セミナーが中断しています。このピンチをむしろチャンスと捉え、Web によるバーチャル海外研修・セミナーを企画することで、会員の皆様が自宅や職場から参加できるようにします。（10）定款・規定を見直します。会長・副会長、各種委員会委員長などの役職任期を制限し、老若男女にかかわらず、定期的に役員が入れ替わり、新たなアイディアの創出が生まれるような体制づくりに務めます。

以上が今期の私の公約です。今後も微力ながら、本学会の発展に尽力したいと考えております。会員の皆様のご支援を心からお願い申し上げます。

第 42 回大会のお礼

第 42 回大会実行委員長 広島大学大学院　中坪史典

国際幼児教育学会第 42 回大会（2021 年 9 月 25 日～10 月 08 日 Web 開催）は、日本、中国、米国、韓国、タイ、ベトナム、ジンバブエ、スペインなどから 289 名の方にご参加頂き、盛況のうちに閉会しました。大会初日は、「世界の幼児教育のニューノーマル」というテーマのもと、日本、米国、中国、韓国、タイの就学前施設における COVID-19 の影響や、新常態下での実践について議論されました。大会二日目は、絵本、アート保育、演劇・表現のワークショップが開催されました。また、日本語部会 33 件、英語部会 15 件、中国語部会 58 件の研究発表が行われました。

参加者のうち、日本語が理解できない方が 3 割以上おられる点や、三言語に分かれて研究発表など、本学会は、他学会とは異なる特徴を有します。したがって大会開催の準備にも多くの困難が伴いました。とは言え、国際幼児教育学会だからこそ可能な、多様な国々の研究者や実践者との議論が実現できたのではないかと思います。ご参加頂いた皆様に感謝申し上げます。

大会実行委員より

第 42 回大会実行委員会事務局長　福岡県立大学　伊勢 慎

参加者の皆さまにはこの場を借りてお礼申し上げます。大会事務局としましては、参加しやすい大会になるよう３言語での対応に奮闘したところです。今後の皆さまの研究に寄与できましたら幸甚に存じます。

司会　広島大学大学院（院生）　加藤 望

当日は、日本語と英語を用いて司会を担わせていただきました。オンライン開催ということで、ご参加いただいた皆さまの顔を見ることができないまま、会場の空気を感じられない状態での司会となり、至らない点もあったかと存じます。皆さまには、大会のスムーズな進行にご協力をいただきまして、感謝申し上げます。

Zoom ワークショップ担当　広島大学大学院（院生）　田島 美帆

主にワークショップの運営に携わらせていただきました。参加者人数や参加者の使用言語が当日始まってみないとわからないという状況の中、何れの部会の先生方も入念にご準備いただきました。ありがとうございました。

中国語翻訳担当　広島大学大学院（院生）李　睿苗

シンポジウム資料翻訳は少し大変だったと思ったのは、やはり 5 カ国の資料で量が多いのと、提出してくださる時間はそれぞれ違うし、いつも待機して原稿がいつくるかを待つことです。でも、参加者から翻訳資料があってよく分かりましたというコメントもいただきましたので、翻訳してよかったなと思ってます！

Zoom 操作全般担当　共立女子大学　境 愛一郎

当日の Zoom 操作全般を担当させていただきました。大会の映像・音声のほとんどが今この原稿を書いている PC から発信されたと思うと感慨深いものがあります。企画の段取りや通信環境の確認などは入念に進めたつもりでしたが、一部の企画で映像が乱れてしまい大変申し訳なく存じます。ただ、個人的には、舞台作品の裏方に立たせていただいたような楽しい時間でありました。

日本語部会より

論文チャット機能管理対応　共立女子大学　境 愛一郎

質疑応答システムの進化に驚きました。ご準備いただいたスタッフの皆様、ご質問いただいた先生方にお礼申し上げます。掲示板のように質疑応答が展開される形式はとても分かりやすく、時間に縛られず質問者様とのやりとりを続けることができました。

THEME

A New Normal for Early Childhood Education and Care

英語部会より

California State University　斎藤 法子

研究発表は多くの中国語、日本語の発表参加で、残念にも 15 件の英語だけを読ませていただき、将来の幼児教育に対し重要な研究発表と討論で以上に意義がありました。今回は質的研究が多かったようですが、将来は定量分析研究発表も期待したいです。過去依頼初めての遠隔学会でありましたが、複雑なテクノロジーの困難を超え、立派な計画事項は効果的で、大変充実（完成）されていたと感じます。この学会成功の理由は中坪会長はじめ学会計画関係者皆様の大変なご苦労と努力と能力の影響と信じます。

広島大学大学院（院生）　渡邉 真帆

私は、「英語部会」で研究発表致しました。チャット形式による文字を介した質疑応答は、口頭発表よりも確実なやりとりができたと感じています。貴重な場をありがとうございました。

中国語部会口頭発表より

華東師範大学　周 念麗

9 月 26 日から 9 月 28 日まで、中国の幼稚園園長、教師及び学者計 83 人が「幼稚園カリキュラムの構成と実施」、「保育士のプロフェッショナル」及び「幼児心理発展」の三つのテーマに焦点を当て、オンライン交流の形式を通じて、六つの分科会場に分け、理論から実践までの研究発表を行いました。各分会場における発表の品質を保証するために、各分会場に学術影響力のある学者や園長を指定討論者として設置しました。参加者の全員はこれは理論と実践の高いレベルの学術的な盛会であったことを実感しました。

福山市立大学　劉 郷英

9 月 26 日～ 28 日（13:00 ～ 21:00）の 3 日間にかけて、中国語部会の研究発表がオンラインにより口頭で行われました。発表は合計 59 件あり、 9 割以上は中国の幼児園における幼児教育に関する実践研究であり、3 歳未満児保育に関する検討も少ないながら行われました。これらの研究は、子どもの「積木遊び」や「自由遊び」「音楽遊び」などのミクロな視点での研究もあれば、「政策分析」などのマクロな視点での研究も、保育者の資質向上に関する研究もありました。これらの研究発表を通して、今日における中国の乳幼児教育保育に関する実践研究の質の高さを感じることができました。

広島大学大学院（院生）　権 赫虹

中国語部会は、遠隔会議システムである VooV Meeting を用いてオンラインで開催しました。参加者の活発な議論により、中国国内で幼児教育の質の向上につながると実感しました。

広島大学大学院（院生）　李 睿苗

中国語部会で発表して、質疑応答の時間が設けられていませんでしたが、発表終わったら、司会者からコメントをいただいたし、実はチャットで質問してくださる方もいらっしゃるので、議論ができてよかったと思います。

「ニューノーマルな保育実践と子どもたちに育つ力

名古屋女子大学　門松 愛

第 47 回大会シンポジウムは、世界各国の事例からニューノーマルな時代の保育を学ぶ貴重な機会となりました。ニューノーマルな時代の保育では、保育内容や方法の変更、オンラインでの保育、保護者支援の方法の変更など、様々な工夫、配慮がなされていました。そして、ニューノーマルな時代を生き抜いていく子どもたちにどのような力の育成が必要なのか、ICT やレジリエンスなど改めて考えていく必要があると学ぶことができました。

リモートでの国際幼児学会の感想

California State University　斎藤 法子

４２回国際幼児教育遠隔学会が１０月８日に無事大成功に終了し関係者の皆様、最初に感謝の言葉を述べます。ありがとうございます！
パンデミック「COVID-19」の影響での幼児教育、「新しい『普通』」を　テーマで、リモートシンポジュームは開校や閉鎖した幼稚園、保育園の５ケの国々、それぞれの幼児教育指導、遠隔学習、遠隔指導などの興味深い比較対照でした。しかしある本稿は少々テーマから離れてた感じを受けました。シンポジュームとは特定の主題について話し合うため会議 (Conference) なので、次回の提案として、なるべくプレゼンターは主題に終点を置く事に努力を図ると、もっと意義のあるシンポジュームとなると思います。又、懸念はプレゼンターや参加者の時間配慮問題などがチャレンジではないかと感じました。次は絵本、アート保育、演劇・表現を中心のワークショップは現実保育実践場面のビデオと共に参加者とネット対話可能は特に興味深く勉強になりました。又、研究発表は多くの中国語、日本語の発表参加で、残念にも１５件の英語だけを読ませていただき、将来の幼児教育に対し重要な研究発表と討論で以上に意義がありました。今回は質的研究が多かったようですが、将来は定量分析研究発表も期待したいです。過去依頼初めての遠隔学会でありましたが、複雑なテクノロジーの困難を超え、立派な計画事項は効果的で、大変充実（完成）されていたと感じます。この学会成功の理由は中坪会長はじめ学会計画関係者皆様の大変なご苦労と努力と能力の影響と信じます。４２回国際幼児教育遠隔学会の成功に対して、もう一度関係者の皆様に心から感謝の意を示めします。

タイのシンポジウムに登壇して

AssocienInternationalKindergartenBangkok35
山本一晴

第 42 回大会ではタイのニューノーマル保育の実践として、オンライン授業実施に至る政策的な背景からこれからの保育者に求められる資質、そしてインターナショナルスクールでのオンライン授業の実践についてご紹介致しました。ご多忙にもかかわらず、ご参会いただきました皆様に深くお礼申し上げます。また、運営委員会の皆様には発表前から準備調整等いただきました。この場を借りて併せてお礼申し上げます。

A reflection of the 42nd IAECE Conference

Pierce College,California
Miyuki Yatsuya-Dix

Despite the overwhelming challenges of the past year and half, the 42nd conference of the International Association of Early Childhood Education was a success. Congratulations to all educators who shared their passion toward their research, studies, and practices in Early childhood education.
It is no doubt that people throughout the world are becoming a fast-paced globe. Technology is a great connector, but it can also demand that we can be instantly available to each other no matter what. It was amazing to see how well organized the conference was from the beginning to end and how accommodating it was for the people who speak different languages.
It was very interesting and relevant topic to share many studies. I was very excited and enjoyed listening to the New Normal around presenters with specific countries. I, myself was excited to present and share what was happening in Los Angeles, California with Dr. Saito. I wish we could have more time answering many great questions and having some discussion time with those attendees who shared many comments and questions. I believed that everyone who participated and attended this conference was able to take many important pieces from many topics, gain new knowledge, and open their perspective throughout the conference.
I would like to acknowledge Chairman, Mr. Nakatsubo’s amazing leadership and the hard work that he put into this conference. I also deeply appreciate not only to Chairman, Mr. Nakatsubo but also those educators and his IT staff who were there to support this conference to have a huge success.
I wish you all another healthy and safe year and hope to see everyone in person next time.　　All the Best,

中国のニューノーマル保育実践

福山市立大学　劉 郷英

欧賽萍先生（海韻幼児園園長）と周念麗先生（華東師範大学教授）が、中国の実践例として、海韻幼児園が取り組んでいる「生きる教育」の実践を紹介されました。海韻幼児園は、2004 年浙江省寧波市象山区にある私立幼児園として設立され、長年、「中国の幼児教育の開拓者」と「中国の幼児教育の父」と称賛されてきた陳鶴琴先生の「活教育」理論に基づいて実践してきた園です。。コロナ禍の現在、子どもたちの「自救能力」の育成が何より重要であると認識され、長年実施してきた生きる教育の「３ H」（Head,Heart,Hand）を通じて様々な探究活動に取り組んだ実践が報告されました。この事例を通して、中国におけるニューノーマル保育実践の様子を垣間見ることができたと思います。

シンポジウムを終えて

華東師範大学　周 念麗

コロナウイルスの流行の影響で、日本幼児国際教育学会は初めてオンラインで第 42 回学会を開催しました。
感想の一つは、環境の変化に柔軟に対応することです。「生きることを学び、生活を学ぶ」ことは幼児教育における重点の一つである。今回の遠距離で国際シンポジウムを行われることは、突然に発生状況に対する柔軟な対応能力を十分に証明し、子供たちに手本を示しました。
感想のも一つ、遠距離は学術交流を遮断することができません。今回の学会では、各国の学者たちは ZOOM を通して、米国、日本、韓国及び中国などの幼児教育の新しい姿を見まして、まるで現地に入ったようなと実感でした。

その後に向かって

認定こども園清心幼稚園　栗原啓祥

この度は、国内及び海外の研究者・実践者と学ばせていただく貴重な発表の場をいただきましてありがとうございました。コロナ禍でオンライン開催となりましたが、朝早くにもかかわらず多くの方にご参加いただきとても嬉しかったです。また、当日のチャットコメントから、共同発表の境先生とラジオ風でやりとりしたことが大変刺激的でした。ライブの緊張感から思うように話すことができませんでしたが、今大会の主旨にあります「従来の幼児教育を問い直し、新たな価値を創造する」ことが、コロナ禍に限らず大切であろうと再認識いたしました。今後もそうした問いを持ちつつ、楽しみながら本発表の続き、保育を重ねてまいりたいと思います。

子どもも大人も探究するニューノーマルに向けて

共立女子大学　境愛一郎

早い時間からの企画にも関わらず、多くの方々にご参加いただきましたことを心より嬉しく存じます。当日は、子どもの「みる」「きく」「いる」といった経験の価値、保育者などの大人が「魅せる」ことの意義について提案しました。「子どもが主役」は、我が国で広く共有された保育実践のノーマルであると考えます。しかし、批判を恐れず述べるならば、それは子ども用に活動をマイナーチェンジすること、保育者に備わる個性や能力を隠してしまうことにもなり得ます。シンポジウムを通して、保育者養成、音楽表現といった様々な分野の先生方よりご示唆を賜るなかで、改めて子どもが主体的に探求することの意味、保育者の専門性とは何かについて問うことができたと実感しております。また、「魅せる」ことを強調すれば、特別な経歴をもった保育者ばかりが持て囃されるのではないかというご指摘もいただきました。一つひとつを受けとめ、コロナ禍への一時的な対応ではない、我が国のこれまでとこれからを貫くニューノーマルを模索していきたいと強く思います。最後に、ご参加いただきました皆様、スタッフの皆様に深く感謝申し上げます。

韓国のニューノーマル保育実践について

聖徳大学　森　貞美

第 42 回大会シンポジウムにおいて、韓国のニューノーマル保育実践として、慶星大学校の李妍承教授と幼児教育科博士課程の李侑晉さんが「コーディングロボットを活用したソフトウェア教育プログラムが幼児のコンピューティング思考力と遊びに及ぼす影響」について発表してくださいました。今回、発表資料及び動画作成、大会当日の通訳などを通して、私自身もオンライン開催ならではの貴重な経験をさせていただきました。
ICT 革命の急速な進展と COVID-19 の影響により、幼児教育におけるオンラインツールの導入が一気に進んでいる中で、韓国のコーディングロボットを活用した教育プログラムの事例は、その具体的内容、指導方法、子どもの反応などの側面で大変興味深い結果を示していました。これからの時代に必要とされる主体性、創造力、融合力の育成につながる幼児教育の新たな在り方の模索において、大きな示唆を与えてくれる内容でした。当日、多くの会員の皆様がご参加くださり、貴重なご質問やご意見を賜りましたことを心より感謝申し上げます。

第 42 回大会のシンポジウムに参加して

韓国慶星大学校　李 妍承

今回、国際幼児教育学会の第 42 回学術大会に参加できたことを大変嬉しく思います。大会参加を通して、各国で注目されている近年の教育課題と実践に関する発表を拝聴し、幼児教育の発展のために参考になる様々な視点と示唆点を発見することができました。特に、韓国の幼児教育課程と私が関心を持っているロボット活用教育を日本や各国の学界に紹介する機会を与えてくださり、私の研究に多くの関心を示してくださったことに感謝の意を表します。今回の発表を通して、幼児教育におけるロボット活用の可能性が認知され、様々な方法でロボットを活用した教育実践が行われる契機となることを願っております。

タイのシンポジウムを終えて

神戸親和女子大学　福井 逸子

現在、タイの幼稚園では、「オンライン」「オンサイト」「オンハンド」の３つの柱を基に教育・保育が進められています。これは日本の保育現場から見ると、随分かけ離れているかのように感じられるかもしれません。しかし、コロナ渦において、教育者（保育者）がいかに子ども達や保護者と繋がり合っていくかを考えさせられました。また、子ども達が登園しない間は、オンライン教材、手作り教材など、コロナ以前の何倍もの労力を使い、日々、教材研究を積み重ねている現地の友人達（教員）の姿を映像等で見つめながら、私自身、その姿勢に多くの事を学ばされました。引き続き、今後もタイ国との交流を深めていきたいと思います。

THEME

A New Normal for Early Childhood Education and Care

絵本ワークショップ

玉川大学　松本 由美

絵本部会ワークショップは「グローバリズムを育む絵本」と題し、絵本部会会長宮地敏子の『多様という普遍を志して』に続き、石川由美子先生（宇都宮大学）、上村瑞枝先生（ゆりかご幼稚園）、松田ミカ先生（JICA 筑波図書情報室）、何偉先生（中国フレーベル幼稚園）、成田望さん（玉川大学 4 年）から絵に纏わる実践報告をいただいた後、絵本部会副会長 山岡テイ・山田千明が全体をまとめた。オンライン開催には工夫も要したが、多くの新しい仲間が増えたことは何よりの成果だった。

宇都宮大学　石川 由美子

登壇者によってグローバリズムをどうとらえるかの観点はそれぞれの研究領域や実践領域で異なるのが当然である。しかし，それぞれの登壇者の発表には，「お互いを尊重して共に生きる」という見解が通底していると思われた。文化が違えど，絵と文からなる絵本は，人間が伝え合うべき生きるかたちを国の境界を越え優しく温かく伝えてくれる文化財である。

ワークショップ　インプロ（演劇）

青山学院女子短期大学　直井 玲子

熱心で意欲的な参加者の皆様に乗せられて、インプロ（即興演劇）のあれもこれもとご紹介したくなりつい欲張ったプログラムにしてしまいました。インプロ（即興演劇）は教えるときもインプロです。参加者の顔を見ながらその様子を把握して次に何を提案していくべきかを決めていきます。今回のこの貴重な機会が、たくさんの子どもたちと保育者の「主体的で、想像の世界であそべる楽しい時間」へとつながって行ってくれることを願っています。

広島大学大学院（院生）　田島 美帆

ワークショップをオンラインで受講するのは初めてでしたが、Zoom の機能を使ったアクティビティが随所に盛り込まれており、気がついたら夢中になって参加していました。特に、接続詞（ところが～、そのために～、そしてついに等）を使うことで、お話づくりが容易にできたのは目から鱗の体験で、子ども達ともぜひ試してみたいと思います。「失敗はみんなへのギフト」というインプロの考え方にも強く共感しました。

アート保育ワークショップ

アトリエ REI レイこども舎　岡本 礼子

アート保育は、テーマ「わける、ならべる」を、素材（生活、生もの、遊具）に限定して提案することで、色やカタチの違いを感じ取れるのではと思いました。参加者の方の作品の共有や感想をもっとスムーズに紹介できればよかったなと反省です。○△□の素材を「わける、ならべる」が美意識に繋がっていくことを体験していただけていればと思います。生活の中に常に「わける、ならべる」を意識して生活を豊かに楽しんでほしいと思います。

アトリエ REI レイこども舎　岩手萌子

「分ける・並べる」の意識を保育に取り入れることについて、考えました。画材など特別なものを用意しなくても、身近なものを分けたり並べたりすることで、アート思考は育ちます。アート思考とは、１つのものを様々な角度からみて、考えることです。ものの見方を変えながら遊ぶことは、自分は何を美しいと思い、相手は何を美しいと思うか見つけるきっかけになりそうです。それは相手の個性を認めていくことに繋がると思います。

委員会報告

■ 機関紙編集委員会　委員長　上田 敏丈

国際幼児教育学研究第 28 号が無事に発刊されました。すでに皆様のお手元にも届いているかと思います。本号では、合計 30 本の投稿がなされ、そのうち厳格な査読を経て 16 本が掲載されることとなりました。

引き続き、来年の 1 月には 29 号への投稿が始まります。ご投稿をご予定の方は、学会ホームページや学会メーリングリストでお知らせいたしますので、ご準備ください。

■ 会報委員会　委員長　岡本 礼子

会報は年２回発行しています。11 月、4 月の二回となります。国際色豊かなコメントを準備したいと思っております。海外の情報をお持ちの学会員のみなさまより、興味深い伝えたい原稿をいただきたいと考えております。

■ 研究委員会　委員長　山岡 テイ

第 50 回の Zoom による研究会と情報委員会による YouTube 配信も大勢の方にご参加いただきました。第 51 回研究会は、佐藤あずさ先生（早稲田大学大学院准教授）が『通訳者養成法の実際と子どもの英語教育の可能性』を具体的な訓練法の実例を交えて、来年 1 月 22 日に開催予定です。

研究会：http://www.iaece.org/s08_studyGroup.html

■ 情報委員会　委員長　荻原 明信

メーリングリストでのお知らせでご存じでしょうが，YouTube による動画配信を始めました。著作権や肖像権などの問題が考えられるので，現在はまだ限定的ですが，徐々に掲載動画を増やしていきたいと考えています。どうぞよろしくお願い申し上げます。　（ 連絡先：ogiwara@sakushin-u.ac.jp ）

■ 渉外委員会　委員長　森 貞美

国際幼児教育学会第 42 回大会において、「世界の幼児教育のニューノーマル」というテーマでシンポジウムが開かれ、各国の研究者・実践家の皆様によって多角的な視点からの発表が行われました。海外の副会長、理事、会員の皆様が一堂に会して、大変有意義な学術交流の場となりました。

■ 定款・規程検討委員会　委員長　森 貞美

2021 年 9 月 23 日に開かれた「2020 年度理事・評議員会」において、本学会の 7 委員会の規程が承認されました。各委員会規程が整備されたことによって、委員会活動がより活発に行われることを願っております。

■ 学術貢献賞推薦委員会　委員長　天野 美和子

この度、本学会において新たに「学術貢献賞」を設けることになりました。この賞の趣旨は、世界トップレベルで幼児教育分野の学術に貢献している方に与える賞です。それに伴い学術貢献賞推薦委員会が設置され、今後は本委員会において、どのような方に与える賞にするのかなどの表彰規定について具体的に検討してまいります。

2021 年度学会功労賞・研究奨励賞の受賞者報告

学会功労賞：山田 千明氏（共栄大学）

〈選考理由〉　優れた研究業績はもちろんのこと、国際幼児教育学会の発展に貢献された会員から、今回は、山田 千明氏（共栄大学）が選考されました。山田氏は、長年理事、評議員を務められ、絵本部会員としても学会の発展に貢献されました。

〈 学会功労賞受賞の辞 〉

受賞に際し深くお礼申し上げます。会員の先生方との幼児教育についての語らい、特に絵本部会での意見交換は最高に幸せな時間です。今後共学会に貢献ができるよう努めさせていただきたく存じます。

共栄大学　山田 千明

研究奨励賞：松田 こずえ氏（フェリシアこども短期大学国際こども教育学科 / 専攻科常勤専任講師）

〈選考理由〉　機関誌「国際幼児教育研究」に掲載された論文の中から優れた論文を投稿された著者から選考され、研究奨励賞は松田 こずえ氏 （フェリシアこども短期大学国際こども教育学科 / 専攻科常勤専任講師）が選考されました。松田氏は、「国際幼児教育研究」27巻 pp123~140　2020 年掲載に掲載された「ノルウェーの保育カリキュラムの改革動向　―　男女平等に向けた取り組みに着目して―」の論文が高い評価を受けたものです。

〈 学術賞受賞に寄せて 〉

日本の子どもの幸福度の低さ（UNICEF 2020）等の課題に対し、幼児教育において海外の実践に学べることは多いと考えます。グローバルおよびローカルな視点で、今後も研究を進めて参る所存です。

フェリシアこども短期大学国際こども教育学科 / 専攻科常勤専任講師　松田こずえ

世界の幼児教育

タイバーチャル研修のアイデア

山本 一晴　Associe International Kindergarten Bangkok 35 統括部長

タイのバーチャル研修の可能性を探るためのアイデアを共有したいです。というのも、再来度はタイで学会が開催される可能性があり、事前にタイの社会や文化に触れて理解を深めておきたいためです。近年はコロナの影響によりタイに限らず海外への渡航は制限が多く、以前のように気軽に行くというのはもう少し先になるかもしれません。

そこで、私個人としては当園の案内ビデオを作成して会員の皆様に見てもらったり、タイの言葉や伝統舞踊などを体験してもらったりということを試案しています。バーチャルというほどのものではありませんが、オンラインを通じて理解を深めてもらえればうれしく思います。もし、何かアイデアや希望があればぜひ事務局までお知らせください。

海外の書籍紹介

松田 こずえ　フェリシアこども短期大学国際こども教育学科 / 専攻科常勤専任講師

「新たなストーリーを紡ぐ」

Moss, Peter, 2019, Alternative narratives in early childhood : an introduction for students and practitioners, Routledge.

本書は、ピーター・モスにより、幼児教育で主流とされているもの以外の新しい考え方について述べられたものです。モスは、アンデルセン童話『裸の王様』を例に挙げ、既存の理論を疑いなく信じることが支配的な権力と結びつきやすいと警鐘を鳴らします。その代わりに、教育は文脈や他のことの関係の中で意味づけられるので、多様な物語を語り、他者の考えに耳を傾けることで「豊かな子ども」をイメージし、「代わりになりうる物語」と「多面的な見方」を探求することの重要性を主張します。私もノルウェーの幼児教育に関する研究を通じ、新たなストーリーを紡ぎたいと考えております。

2020 年度決算報告（2020 年 8 月～2021 年 7 月）

単位：円

特別会計　学会賞

収入の部	予算額	決算額	差額	支出の部	予算額	決算額	差額	備考
前年度繰越金	1,378,500	1,378,500	0	学会賞副賞	50,000	50,000	0	宮地敏子氏
その他収入	0	0	0	次年度繰越金	1,328,500	1,328,500	0	
合　計	**1,378,500**	**1,378,500**	**0**	**合　計**	**1,378,500**	**1,376,500**	**0**	

特別会計　松原・学術賞

収入の部	予算額	決算額	差額	支出の部	予算額	決算額	差額	備考
前年度繰越金	1,400,000	1,400,000	0	学術賞副賞	50,000	50,000	0	中島信子氏
その他収入	0	1,000,000	1,000,000	次年度繰越金	1,350,000	2,350,000	1,000,000	
合　計	**1,400,000**	**2,400,000**	**1,000,000**	**合　計**	**1,400,000**	**2,400,000**	**1,000,000**	

一般会計　収入の部

	予算額（A）	決算額（B）	差額（B）－（A）	備考
前年度繰越金	385,748	385,748	0	
会費収入	1,960,000	1,904,000	-56,000	正会員内訳 7,000 円 ×202 人 14,000 円 × 29 人 21,000 円 × 4 人
（1）正 会 員		1,904,000		
（2）機関会員				
（3）賛助会員				
広告収入	0	0	0	
売上収入	0	2,000	2,000	
利　子	0	16	16	
雑収入（寄付等）	18,000	50,777	32,777	
合　計	**2,363,748**	**2,342,541**	**-21,207**	

一般会計　支出の部

	予算額（A）	決算額（B）	差額（B）－（A）	備考
事業費	970,000	154,832	-815,168	
①大会費	500,000	-37,238	-537,238	41 回大会戻り
②機関誌	300,000	-6,200	-306,200	27 号差額戻り
③会　報	100,000	148,270	48,270	71 号、72 号
④研究会	30,000	10,000	-20,000	
⑤支部活動	40,000	40,000	0	
会議費	20,000	22,110	2110	
印刷・製本代	300,000	8,750	-291,250	
人件費	450,000	118,500	-331,500	
交通通信費	340,000	218,080	-121,920	
消耗品費	30,000	18,841	-11,159	
諸雑費	253,748	118,295	-135,453	
次年度繰越金	0	1,683,133	1,683,133	
合　計	**2,363,748**	**2,342,541**	**-21,207**	

2021 年度予算案（2021 年 8 月～2022 年 7 月）

単位：円

収入の部 費　目	予算額	支出の部 費　目	予算額
前年度繰越金	1,683,133	事業費	1,106,600
		①大会費	500,000
		②機関誌	396,550
会費収入	1,960,000	③会　報	150,000
(1) 正 会 員		④研究会	20,000
(2) 機関会員		⑤支部活動	40,000
(3) 賛助会員		会議費	40,000
		印刷・製本代	150,000
		人件費	450,000
		交通通信費	350,000
広告収入		消耗品費	20,000
売上収入	2,000	諸雑費	250,000
利　子	100	次年度繰越金	1,279,233
雑収入(寄付金等)			
合　計	**3,645,233**	**合　計**	**3,645,233**

〈 学会賞 〉

収入の部 費　目	予算額	支出の部 費　目	予算額
前年度繰越金	1,328,500	2021 年度副賞	10,000
その他収入	0	次年度繰越金	1,318,500
合　計	**1,328,500**	**合　計**	**1,328,500**

〈 学術賞 〉

収入の部 費　目	予算額	支出の部 費　目	予算額
前年度繰越金	2,350,000	2021 年度副賞	50,000
その他収入		次年度繰越金	2,300,000
合　計	**2,350,000**	**合　計**	**2,350,000**